

④ 考えを交流(ペア)させる。 (5分) 【視点 2】
 T「となりの人に、自分の考えを伝えましょう。友達の発表を聞いたら、感想を言ってあげましょう。」
 (予想される反応)
 入れるもの：わかめ どうなる：髪の毛が黒くなる
 入れるもの：ピーマン どうなる：病気にならない(かぜをひかない)
 入れるもの：チーズ どうなる：かけっこが速くなる

※ 自分の好きなものを選び自分の経験と結びつけた内容であれば、根拠の整合性は問わないようにする。
 ※ 机間指導をしながら、イメージできない子へは、動物たちのを参考にしても良いことを伝える。
 ★ 動物たちが教えてくれたことを振り返り、自分がりっちゃんに教えたいことを考えている。
 (発言・ノート)

◇子どものノート

⑤ 一人一人の考えを全体で交流する。 (5分)
 T「りっちゃんへ教えたいことを発表してもらいます。」
 T「友達の発表を聞いて、思ったことを話しましょう。」

◇手紙の形式

次時の学習をイメージさせるために、終末に提示する。

りっちゃんへ
 ・サラダに入れるもの
 ・たべるとどうなるか
 (じぶんのなまえ)
 絵

◇ てがみのかきかた

(教科書の手紙例)

りっちゃんへ
 サラダには、じゃがいもを
 入れるといいよ。おなが
 いっぱいになって、げんきに
 なります。 もり けんた

○ 入れるもの
 ○ たべるとどうなるか

10/4
 りっちゃんにおしえたいことをかんがえよう。

サラダで げんき

⑥ 学習を振り返り、次時の学習への意欲をもつ。 (5分)
 T「明日は、りっちゃんへ手紙を書きます。P19の手紙を真似しながら、自分の手紙を書いてみましょう。」
 ※ 次時で使う、手紙の形式を提示し、意欲を持たせると同時に、実際に書くことをイメージし次時を迎えられようにする。

① 前時の学習を振り、本時のめあてを確認する。 (5分)
 T「今日は、自分がりっちゃんに教えてあげてみることを考えてみよう。」
 ※ りっちゃんに、サラダに入れるとよいものを教える手紙を書くという学習課題を再度確かめ、本時のめあてをつかませる。
 【視点 1】

② 全文を読んで、動物たちが教えたことを確認する。 (15分)
 T「動物たちは、どんなものを入れるといいと言ったのか、入れるとどうなるか教えてくれたのか考えながら読んでみましょう。」
 T(資料①の表を使って)「動物たちが教えたことを確かめてみましょう。」
 ※ 動物たちが薦めた材料は、それぞれ動物にとってどんなものか、それを入れるとどうなるか伝えられたのか話し合わせる。
 【視点 1】

(資料①)

動物の種類	材料	効果
うさぎ	わかめ	げんきがよくなる
ねこ	ピーマン	病気にならない
いぬ	チーズ	かけっこが速くなる
うさぎ	じゃがいも	いっぱいになる
ねこ	わかめ	げんきがよくなる
いぬ	ピーマン	病気にならない
うさぎ	チーズ	かけっこが速くなる
ねこ	じゃがいも	いっぱいになる

③ サラダに入れるとよいと思うもの、それを食べるとどのように元気になるのか考える。 (10分)
 T「サラダに入れるとよいと思うものを発表して下さい。」
 ※ なかなかイメージできない子のために、P19の手紙例を示し、思い浮かんだものを板書しておく。
 T「何を入れるか、それを食べるとどうなるかをノートに書いてみましょう。」
 ※ それぞれの場面で「入れるもの」「どうなるか」の観点でまとめてきているので、自分の考えも同様に書き込ませる。
 【視点 3】

